縁プロジェクト活動報告
共に歩む通信

No.4
2016年1月30日発行
責任者
縁プロジェクト会長
仙 裕司

鬼怒川常総水害復旧にボランティア活動（第１～４次）

▲床剥がしの作業

2015 年 9 月 10 日、鬼怒川が茨城県常総市で決壊し、周辺は甚大な洪水被害を受けました。縁プロジェクトは、9 月 20 日 (日) には第一陣を編成して現地入りを果たしました。

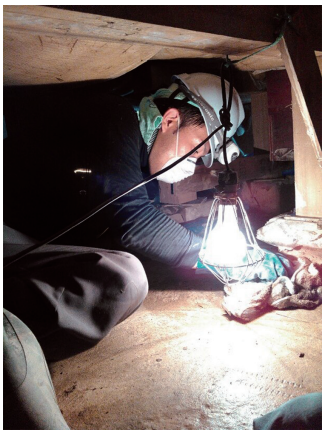
実際に現地に行ってみると、あたりの土地はほとんど水田でした。不幸にも水に浸かってしまった刈り入れ前の水田は、倒れた稲がそのままになっています。その一方で水害前に稲刈りを終了した水田をみると、刈り入れた米は倉庫で水に浸かってしまったのではないか、と心配になります。しかし被害は水田だけではありません。市街地にも容赦なく水は押し寄せていました。

今回の水害では、家屋が土台ごと流されており、車や家財道具が田んぼに転がり、用水路に突き刺さっているような光景がテレビや新聞などメディアで大々的に取り上げられていますが、そのような甚大な被害場所は堤防の決壊箇所の近くであり、大部分の場所では家屋はそのまま残っており、水が引いた今、そこが被害箇所かどうかは一見しただけではわかりません。家屋に近づいてみると外壁や窓ガラスに筋が入っています。さらに近づいて家の中を見ると確かに汚泥が流れ込んでいるのがひと目でわかります。汚れた壁と床があり、それはたっぷりと水分を含んでいます。

この様子をみて、最初に思ったことは 2011 年の東北の状況と同じだ、ということでした。水流に勢いのある場所では家屋ごと流されてしまいますが、じわりと水がやってきた所では、家中が汚泥を含んだ水浸しになります。あの時の記憶が鮮やかに蘇りました。

▲鬼怒川決壊箇所付近

▲壁剥がしの作業


▲床下の作業

▲廃棄される壁と床

現地では常総市の社会福祉協議会が主催しているボランティアセンターで受付をせず、直接現場に入り作業をすることができました。この作業は、宮城県東松島市のチーム、埼玉県東松山市のチーム、および我々大田区の縁プロジェクトの三者の連携により実現できたものです。震災後 4 年半の積み重ねを活かし、被災された方のためにボランティア活動をよりスムーズに展開できました。

５回の現地での作業内容は概ね、床剥ぎと床下掃除でした。リーダーが最初に電動丸ノコで床に切れ目を入れ、他のメンバーが天付き棒やバールで根太（ねだ）を残して床を剥ぎ、外に捨てます。一度水に浸かった部分はそのままにしておくとすぐにかびが生えてきます。水が引いて掃除をすれば、一見するときれいになり、普段通りの生活に戻っても大丈夫だと思ってしまいますが、さにあらず。かびが床材や断熱材にはびこり、取り返しがつかなくなります。気付いたときは健康を害してしまっています。我々ボランティアの作業はそうした有害なものを除去することです。湿り気を帯びたかび菌の温床になっている床や壁を撤去して、床下の汚染された土を取り除きます。その作業をするためにこの現場に来ています。

作業は時間との勝負であることを強く感じます。根太がむき出しになったままの家で冬を越すことはできません。我々の作業には人手と速さが必要です。縁プロジェクトは、常総ボランティアを今後も継続していきます。（2015 年 10 月 27 日 記 ）

【作業概要】

１次① 9/20(日)	：７名	市営アパート１Ｆ部分の床剥ぎ
１次② 9/21(月)~22(火)	：５名（うち２名 22 日のみ）	Ａさん宅の床剥ぎ・床下清掃
２次 10/ 4(日)	：７名	Ｂさん宅床剥ぎ・壁剥ぎ・床下清掃
３次 10/11(日)~12(月)	：５名（うち３名 11 日のみ）	Ｃさん宅床・壁剥ぎ、Ｄさん宅床剥ぎ
４次 10/18(日)	：９名	Ｅさん宅床剥ぎ・床下清掃、Ｆさん宅床剥ぎ・床下清掃

【10/4 に参加した大学生（20 代女性）の感想】

高速を降りて、実際にしばらく道を走ったら、植物に泥のあとがついていて、あぁ本当にこの土地があの被害にあった場所なんだと再認識させられました。

病院も未だテントを使用していて、今回入らせていただいたお家の方々のお手伝いも通して、改めて災害というのは、地震だけでない！ということを強く感じました。天災は、地震・津波・噴火などと大きなものに着目しがちですが、雨だって雪だって人々の生活環境を麻痺させるだけの力を持っているということに驚く反面、もっと危機感を持たなくてはとも思いました。

実際お手伝いとして入らせていただいたお家では、床剥がしや壁を破壊するのをやらせていただいたのですが、初めて人様のおうちにあがってお手伝いするということをやりました。

単純な作業を繰り返し、本当のボランティアを初めてした気がしました。

またぜひ、参加しますので、よろしくお願いいたします。

OTA フェスタで松ぼっくりクラフト ～被災地に松林再生を願って～

▲松ぼっくりの「はりねずみ」

11 月７日（土）、８日（日）のふれあいＯＴＡフェスタに縁プロジェクトも緑の縁側の一角をお借りしてブースを開きました。被災地の松の種から苗木を育て被災地の松林を再生しようという「松ぼっくりの里帰り大作戦」に取り組んでいますが、この両日は、松ぼっくりで「はりねずみ」を作るクラフトコーナーを開きました。

すでに多くの方々に松の苗木育成にご協力いただいています。ありがとうございます。縁プロジェクトでは、被災地への移植や松に関する交流行事を考えています。今後もどうぞよろしくお願いします。

南相馬市でボランティア活動
～縁プロジェクト福島災害助け隊～

2015 年 10 月 24 日（土）に縁プロジェクトの「福島災害助け隊」（有志）は、初秋を迎えた福島の南相馬市（避難指示解除準備区域）でのボランティアに行ってきました。今回は２回目です。

前回（2015 年２月）に比べ、多少帰還できる区域が広がったように思えましたが、現実はまだまだのようです。常磐道を降りて、右に福島第一原発を見ながら大熊町、二葉町、浪江町を通って南相馬市に到着です。道路のあちこちに放射線量を表示する掲示板があり緊張感が高まりました。「2.4 マイクロシーベルト毎時」の表示も見ました。原発事故による終わりのない放射能汚染被害の恐ろしさを見せつけてくれました。また、現地の道路沿いの家並みは、盗難防止の鉄格子で囲われ、人影はまったくありません。畑には行き場のない黒いフレコン（除染廃棄物）が不気味にうず高く積まれているのが印象的でした。

現地の方々に「自分が生まれ育った家で生活できないことの悔しさは、ことばに言い表せない」また「甲状腺ガンの疑いのある子どももいる」「やり場のない怒りをどこにぶつければいいのか」といったお話を聞きました。

▲ 2015 年２月撮影 国道６号線（左）、南相馬市海岸の松（右）

「福島災害助け隊」も少しでも役に立ちたいとの思いを込め、人手がなく荒れ放題となった雑草だらけの耕作地を元に戻そうと、電動草刈り機にふりまわされながら奮闘してきました。縁プロジェクトでは、福島でのボランティア活動に継続して取り組みます。参加希望の方はぜひお願いします。

人々の絆で災害を乗り越える
～手作りの紙芝居を上演～

11 月 15 日（日）、子ども交流センターのポレポレＥＣＯまつり（こらぼ大森）に縁プロジェクトも参加し、地域防災の取組みとして紙芝居を上演しました。一万年前、地震と津波に襲われたある一族が、力を合わせてベーリング海峡を歩いて渡ったお話です。約 20 分間の上演中、子どもより大人が物語に引き込まれていました。

上演後には、防災を考えるきっかけに非常食アルファ化米わかめご飯を提供しました。

今後も子どもだけでなく広い世代に向け、紙芝居上演を各地で行います。出前ご希望のお声かけください。

▲紙芝居の初めの場面

▲制作の様子

子どもたちが震災に学ぶ
～松仙小学校６年生総合学習～

2015 年８月の避難所体験宿泊防災教室でつながりができた大田区立松仙小学校から縁プロジェクトに震災体験を語る講師紹介の依頼がありました。

平成 27 年度の松仙小学校６年生は、①東日本大震災を忘れずに、②震災に学び、③それを自分のこととして想像し、④みんなで話し合い、経験と想いを共有していこう、というねらいで総合的な学習の時間に“防災”について考えています。実際に避難訓練をしたり、防災のプロに話を聞いたりして、防災についてさまざまなツールで学習し、被災したときに自分にできることはなにかを考えました。ここまで学習を進め、いよいよ実際に被災者の話を聞いてみたい、と子どもたちからの要望がありました。

今回、縁プロジェクトが松仙小学校と東日本大震災の被災者との間に立ち、宮城県東松島市在住で、実際に 2011 年に地震と津波を体験した被災者の松浦奈々子さんをお招きしてお話をしてもらうことになりました。

11 月 13 日（金）の３時間目と４時間目が与えられました。３時間目は２組と４組の合同クラス。４時間目は１組と３組の合同クラスです。

松浦奈々子さんには、それぞれの教室で同じ内容の話をしてもらいました。

地震とそれに続く津波の体験談は、実際に体験した人でないと話せない内容でした。子どもたちはまばたきをするのを忘れるくらいに真剣に集中して松浦さんの話に聞き入っていました。

松浦さんの話の後、縁プロジェクトから団体の活動の概要を子どもたちに話しました。大田区と被災地がつながっている、同じ仲間同士なんだ、ということを子どもたちは理解してくれました。

子ども達の感想

金曜日は、大切なことをたくさん教えてくださり、ありがとうございました。松浦さんのお話の中で、東日本大震災の深刻さが分かったと共に、「自分ができること」に気付かされました。また、松浦さんの笑顔に感動しました。どんなに辛いことがあってもくじけない松浦さんを尊敬しています。私にできることがあればぜひやらせてください！また東京に来たら松仙小に寄ってください！（６年女子）

13 日は遠い所から来て、お話をしてくれてありがとうございました。
松浦さんのお話は、効果音を話に加えてくれたので、わかりやすかったです。松浦さんの話を基にして、いつ起こるかわからない地震や津波の災害の対応に役立てていきたいと思います。そして僕も縁プロジェクトの方々のように少しでも被災地の復興に役立ちたいです。（６年男子）

続く 11 月 21 日（土）には松仙小学校・サポート松仙主催の「親子で防災トレーニング」が行われました。縁プロジェクトも参加し、８月に実施した避難所体験の取組みの報告、グループでの話し合いのサポートなどで協力しました。

▲避難所体験の報告

▲グループで話し合う

縁プロジェクトの会員募集！

- 震災復興支援ボランティア
- 防災教室スタッフ
- 大田ボランティア合唱隊
- 絆音楽祭スタッフ　　など

▼縁プロジェクトホームページ
http://otaenishiproject.jimdo.com/

一緒に活動しませんか